

## 令和8年度 学校経営計画書

学校番号	1	学校名	静岡県立下田高等学校 (全日制)	校長名	鈴木 孝明
------	---	-----	---------------------	-----	-------

### 1 スクール・ミッション

賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習を通して、将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。

### 2 目指す学校像

#### (1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
<p style="text-align: center;">～下高生3つの力～</p> <p>(1) 自己決定力：広い知識と思考力を身に付け、自ら決定できる力</p> <p>(2) 自走力：主体的に判断し、積極的に行動できる力</p> <p>(3) 人間力：至誠(誠実性・公平性) 雄飛(国際性・創造性) 献身(協調性・社会性)</p>	<p>(1) 柔軟な選択科目と工夫された授業による、多様な進路実現</p> <p>(2) 探究活動による、実践的・主体的な学び</p> <p>(3) 学習にも部活動にも積極的に取り組む文武両道</p>	<p>(1) 高い志を持ち、向上心を持って真摯に学習に取り組む生徒</p> <p>(2) 部活動、生徒会活動、学校行事などに積極的に取り組む生徒</p> <p>(3) 社会に貢献する意欲を持ち、次世代のリーダーを目指す生徒</p>

#### (2) スクール・ポリシー具現化の柱

##### ア すべてのに優先する安心安全な学校づくり

- (ア) 個人情報管理及び交通安全対策(自転車運転マナー向上等)、事故対応の徹底
- (イ) いじめ防止に向けた組織的対応
- (ウ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上
- (エ) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上

##### イ グローカルで活躍できる人材の育成

- (ア) 個々の進路希望にあった丁寧な進路指導
- (イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践

##### ウ 主体的、能動的に学ぶ力の育成

- (ア) 自ら考え、実行できる生徒の育成
- (イ) 社会で活躍できる人間力の育成
- (ウ) 自己肯定感の涵養

様式第1号

(エ) 図書館の利用促進

**エ 学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進**

(ア) 失敗や改革を恐れない積極的な組織の確立

(イ) 実効性のある教職員研修の推進

(ウ) 特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した教育実践

オ 学校魅力化・活性化のための開かれた学校

(ア) 積極的な地域との連携（探究活動、部活動等）

(イ) 積極的な広報活動の推進

**カ 学校の働き方改革の推進**

(ア) 学校行事の意義確認と精選

(イ) 業務の効率化と協力体制の強化

(ウ) 教職員のワークライフバランスの推進（退勤時間厳守、勤務時間インターバルの確保）

**キ 信頼される学校づくりの推進**

(ア) 事案に応じた計画的な準備と経費の適正執行

(イ) 総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立

ク 本校の特色を生かしたキャンパス制づくり

(ア) ICTを活用した学校間連携の検討と試行

(イ) 学校行事、部活動等における合同実施の検討と試行

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	すべてに優先する安心 安全な学校づくり	(ア) 個人情報管理及び交通安全対策（自転車運転マナー向上等）、事故対応の徹底	生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。 （情報データ漏洩等トラブルゼロ）	教務 (情報)
			安全に関する教育の徹底のため薬学防犯講座と交通安全教室(自転車)を年1回実施。自転車運転について、掲示物やHR等で啓発活動を行う。（重大事故ゼロ）	生徒
			学期ごとの環境整備活動の円滑な実施と、生徒の心身強化のサポートを相談室の活動等を通じて行い、安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。	保健
			事故発生時に備えた体制の整備と、発生時の対応について教職員への周知を徹底する。	管理職
		(イ) いじめ防止に向けた組織的対応	いじめの早期発見に向けて、年3回のアンケートを実施する。いじめの訴えや兆候が認められた場合、必ずいじめ対策委員会で対応する。	生徒
		(ウ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上	防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率 70%を目標とす	総務

様式第1号

			る。	
		(エ) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	コンプライアンス研修を月1回以上確実に実施する。 教職員の不祥事発生件数と交通事故発生件数を0件にする。 危機管理意識をもって教育活動にあたる職員が100%となる。	管理職
イ	グローバルで活躍できる人材の育成	(ア) 個々の進路希望にあった丁寧な進路指導	3年間を見通した進路学習を実践する。学校評価における「個々の希望に応じた丁寧な指導」への肯定回答を、生徒・保護者ともに90%以上実現する。	進路
			教育課程・授業に関わる業務（教育課程検討、類型科目選択、シラバス、教科書等）について、業務内容を教職員に対して必ず1回以上提示をし、教職員全体で指導を行える体制を整える。	教務
			理数科生徒の各種研修や実験教室による、グローバルで活躍するための進路明確化支援。生徒の満足度5段階評価で4以上の生徒80%以上。	理数
		(イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	生徒が海外で研修する機会を3件以上提供する。令和9年度のNY研修に向けて、昨年度参加者に加え新入生の参加も促し、オンラインでの海外交流機会を1回以上提供する。	国際交流
			主体的な学びに有効なICT機器の整備と、研修等を通してそれを多くの教員が有効に活用できる。（教職員アンケートにて、「ICTを活用した授業実践を行うことができた」の「できた」の割合90%以上。）	教務 (情報)
	適切な授業日の設定により、対外的な活動に参加しやすい環境を整えると同時に、年間の授業時数を確保する。また、時間割・テスト時間割の作成において安定した学習環境の確保と質の向上を図る。さらに、年間行事予定の作成において曜日変更等を行い、1単位当たりの	教務 (教務)		

様式第1号

			授業時数の最大値と最小値の差を、定期テスト間および年間を通して2回以内に抑える。	
ウ	主体的、能動的に学ぶ力の育成	(ア) 自ら考え、実行できる生徒の育成	進路行事の満足度 80%以上を目指す。他部署連携による教科横断・校外学習の推進を通じ、地域行事やボランティアへの参加肯定率 60%以上を実現する。	進路
			2年生文系特進クラスにおいて、特色となるプログラムを実施し、「進路意識が高まった」と考える生徒が5段階評価で4以上が80%以上。	文特
			理数探究の充実による自ら考え、実行できる生徒の育成。生徒の満足度5段階評価で4以上の生徒80%以上。	理数
		(イ) 社会で活躍できる人間力の育成	月3回の会議で探究計画を精緻化し、全教員が伴走者として生徒の試行錯誤を肯定的に支援する。これにより「成長を褒める」教員の回答95%以上を達成し、生徒の「課題解決力向上」への肯定的な回答率85%以上を実現する。	総探推進室
			校外での生徒の学びや自己実現を支援するための多様な機会を提供し、参加した生徒の満足度5段階評価で4以上の生徒80%以上。	地域連携推進室
		(ウ) 自己肯定感の涵養	生徒の状況を把握し、生徒の成長を褒めるよう心がけた教員80%以上。 減点法式から加点方式への転換を進めた教員70%以上。 学校の教育活動に満足している生徒が90%以上。	全職員
		(エ) 図書館の利用促進	図書館だより発行等の図書委員会活動を通して、年度末生徒アンケート「今年度図書室を利用した」を50%以上、「おおむね1カ月に1冊以上読書をしている」生徒を60%以上にする。	教務(図書)
		エ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進	(ア) 失敗や改革を恐れない積極的な組織の確立
教務に関わる業務について、各学期に1回以上見直しの機会を設け、当該業務が教育活動の質	教務			

様式第 1 号

			の向上にどのように寄与しているかについて検証し、業務の適正化を図る。	
		(イ) 実効性のある教職員研修の推進	学力向上、授業力向上のための提案を 1 回以上行う。それを目標とした研修会等を 1 回以上行う。	教務 (研修)
			下高生 3 つの力を育成。模試等の結果を授業や指導に活かす教職員 90%以上を目指す。各種調査や宣言を軸に、生徒の主体的行動を促す進路面談を実施する。	進路
		(ウ) 特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した教育実践	人権教育全体計画、年間指導計画に従い社会の多様性を理解するこころの豊かな生徒を育てる。校内での人権に関わる諸事案の情報を共有し、全職員の人権意識が向上する。特別支援教育等についての知識理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応をとるための資質向上がなされる。	教務 (研修)
			「安全安心な学校生活に関するアンケート」の中で「誰に相談したいか」という項目における回答が本校教職員である割合 50%以上。	保健
オ	学校魅力化・活性化のための開かれた学校	(ア) 積極的な地域との連携 (探究活動、部活動等)	地域連携を通じて、生徒の未見の可能性を耕し、学びに向かう力の向上を図るとともに、校外での学びを学校内での学びと有機的につなげる。参加した生徒の満足度 5 段階評価で 4 以上の生徒 80%以上。	地域連携 推進室
		(イ) 積極的な広報活動の推進	ホームページや学校案内、Instagram を活用して学校の行事イベント・魅力を発信する。 (12 月末まで、合計 100 回以上の投稿)	広報 戦略室
			中学生一日体験入学及びオープンスクールにおいて、運営上の重大な問題の発生を 0 件とし、円滑な運営を行う。	教務
カ	学校の働き方改革の推進	(ア) 学校行事の意義確認と精選	体育的行事、文化的行事の意義を見直し、スリム化を図る。今日の教育施策や社会環境の変化、生徒や保護者のニーズを踏まえた行事の検討を進める。	あり方 委員会

		(イ) 業務の効率化と協力体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有ファイルを用いて、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われる。共有ファイルの更新率を 80%以上にする。</li> <li>教職員に対してスケジュールを事前に提示する。月間行事予定については、2 か月先までの予定を必ず提示する。翌年度の年間行事予定は、その作成のために年間を通じて 3 回以上提示する。</li> </ul>	教務
			(学校全体として) 組織的な運営や業務遂行ができていると回答する教職員が 80%以上。	あり方委員会
			校内組織や部活動の適正化を図り業務改善をすすめる。	あり方委員会
		(ウ) 教職員のワークライフバランスの推進 (退勤時間厳守、勤務時間インターバルの確保)	<p>「タイムマネジメントを意識して業務を進め、年次休暇及び特別休暇を積極的に取得した」教職員 80%以上。</p> <p>平日に退勤時刻 (20:00) を心がけた教職員が 80%以上。</p>	全職員
			「時間外勤務の縮減または業務の効率化や改善を図り、勤務時間インターバルを 11 時間以上確保する」教職員が 80%以上、9 時間以上は 100%となる。	全職員
キ	信頼される学校づくりの推進	(ア) 事案に応じた計画的な準備と経費の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善提案実践 3 件以上。</li> <li>内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス 0 件。</li> <li>複数年の課題解消 1 件以上。</li> </ul>	事務
		(イ) 総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会計事務処理等の事務室への移行。</li> <li>事務室による模試、部費等の徴収の徹底を図る。</li> </ul>	事務
ク	本校の特色を生かしたキャンパス制づくり	(ア) ICTを活用した学校間連携の検討と試行	賀茂地区グランドデザインの具現化に向けて、拠点校配信授業の研究を進める。年度内の進学補講、教養講座、探究学習等での遠隔授業等を 20 時間以上実施する。	賀茂地区グランドデザイン検討委員会
		(イ) 学校行事、部活動等における合同実施の検討と試行	部活動以外に学校行事等での合同実施を計画し試行する。	賀茂地区グランドデザイン検討委員会